

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1171200627
法人名	株式会社あすなるホーム
事業所名	あすなるホーム三郷
所在地	〒341-0034 埼玉県三郷市新和4-545-2 (電話) 048-949-1630

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月20日

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算	13.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,500 円	その他の経費(月額)	20,000円 + 実費
敷金	有 (80,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (120,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1月当たり42,000円			

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三郷中央総合病院、福島歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

系列会社で統一された理念があるが、当ホームはその理念を具体化し地域に密着した独自の目標を作り、施設長はじめ職員が処遇の向上を目指して意欲的に取り組んでいる。利用者のアセスメントもセンター方式、包括自立支援と両面から見て仮介護計画を作成し、段階的にプランの見直しを行って本介護計画の作成をしている。また、併設のデイサービス事業所があるので馴染みながらの利用開始も利点である。日常生活では、豊富なレクリエーションメニュー、外出支援や外食、栄養管理された食事、晩酌やたばこの嗜好まで援助し、利用者の個性や尊厳を大事にした生活が営まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である緊急時の対応については、全職員の研修が実施されているが、救命講習は消防署の都合もありまだ実施されていない。今後、連絡を取り参加する予定になっている。職員の福利厚生においても、暑気払いや忘年会を計画し、多くの方の参加を得ている。また、各フロアとも職員が相談しやすい雰囲気作りをし、問題解決に力を入れている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については職員で話し合い、主任がまとめている。フロア会議の場を利用して、少しずつではあるが話し合いを確認している状況である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議では、ホームの現状報告、行事の企画、ボランティアの受け入れ状況などが話し合われている。行事の準備については、家族から「大変だから手伝わせてほしい」と依頼があり、現在は家族と一緒によりよいホームを目指し頑張っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	行事に参加した家族から個々に意見や希望を聞いた内容を、申し送りノートに記入したり、フロア会議で話し合ったりして、解決できるものについては早急に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入して地域で行う夏祭りなどに参加したり、ゴミ集積場の掃除をしたりしている。地域にある授産施設のバザーにも利用者と一緒にいき、見学や買い物をしてきている。地元小学校の総合学習の一環として生徒を受け入れ、ゲームをしたり、話しをしたりしているので利用者からは喜ばれている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	系列会社全体の理念を具体化して地域に密着した「あすなるホーム三郷」独自の目標を作りあげ各ユニットに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り後の朝礼時、目標を唱和しケアに取り込めるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域で行われる夏祭りや清掃活動に参加している。地域のボランティアも月数回訪問し、日頃の成果を披露してくれる。また、近くにある授産施設のバザーにも利用者と一緒に見に行き、気に入った物を購入したりすることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については、職員で話し合い主任がまとめている。前回の外部評価の内容は、各フロアに掲示しており、職員、家族等が自由に見られるようになっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1度の割合で開かれ、ホームの現状報告、ボランティア受け入れ状況、行事企画などついでの話合い、意見交換をしている。行事の準備については、現在は家族と一緒によりよいホームを目指して取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者福祉課や地域包括支援センターとは、毎月実績表を届ける際に、空き情報や職員の離職について相談したり情報交換を行ったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3～4ヵ月に1回、会社で発行している「さとのかけはし」を家族に送付している。金銭管理状況は毎月郵送し、利用者の近況報告については、毎月家族が利用料金を届けに来た際に、利用者個人の日常生活の様子を伝えたり、意見を聞いたりしている。また、緊急時には電話で報告するとともに意見を聞くように努めている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見や希望については、個々に話し合っている。また、申し送りノートに記入して、カンファレンスやフロア会議でその都度解決している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	試用期間を終えた離職者は、以前と比べ少なくなってきている。試用期間に辞める方はまだいるが、利用者へのダメージは他の職員でフォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列会社の内部研修、各フロア研修、合同研修等職員の段階に応じて実施している。研修に参加した職員は、会議等を利用して伝達し、ケアの向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列会社のグループホームとは、内部研修等のときに情報交換や意見交換をしている。		グループホーム協会の研修時などでは、管理者だけでなく、職員間での意見交換や勉強会をする機会を作り、相互訪問や交流などを通じ、自己研鑽とともに質の向上を目指し取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に徐々馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	併設のデイサービスを利用してからホームの利用となる方や、家族と利用者が一緒に見学に来て納得した上で利用する方もいる。また、利用開始時には、状態を観察しながら声かけを多くするように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	家庭菜園へ一緒に出かけ、トマトやきゅうりの育て方を教わったり、雑巾の縫い方を指導してもらったりして、ともに過ごす中で学び支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	1ヵ月のスケジュールは決まっているが、利用者の希望を聞いたり、その日の状態観察をして、利用者に応じた対応やケアをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	アセスメントもセンター方式、包括方式とで行い、仮介護計画を作成し、2～3ヵ月毎にフロア職員で見直しをしている。その後、利用者、家族、職員等で意見やアイデアを出してもらい本介護計画の作成となる。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画は通常6ヵ月毎の見直しとなっているが、状態に変化が生じた時は、ただちに関係者と連絡をとり、現状に即した見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容や受診時の送迎など、状況に応じた支援をしている。診察室には、家族が付き添っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の場合は診察報告書を家族に渡し、家族がかかりつけ医に連れていく場合は、バイタルチェック表を渡し受診してもらうように体制をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族が面会に来た時など機会あるごとに話している。また、重度化対応、終末期ケア対応の指針は作成している。マニュアル、同意書までも作ってあるが、関係者全員での共有には至っていない。		家族会や医療関係者、職員等で話し合いの機会を作り、ホームとしての方針を全員で共有することを望みたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴時などはプライバシーに気をつけて支援している。記録物についても他の人の目に触れないよう配慮し、長時間記録物を使用しないような時は、各事務所で整理し保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	花の好きな利用者とは、自分で選んで買った花を生けられるよう花屋に一緒に行ったり、入浴については、毎日の入浴や夜間の入浴の支援もしている。また、嗜好も利用者によって異なるので、きめ細かな対応がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	委託業者をお願いして季節の野菜や果物を使用した献立や、四季折々の行事食を摂り入れたものを提供している。また、一緒に食事の準備をしたり、年数回ではあるが外食なども企画し、食事が楽しくなるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には決まっているが、希望があれば夜間入浴や毎日の入浴も支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で利用者の生活歴や力量を考慮し、掃除機かけ、テーブル拭き、洗濯物たたみ等、出来ることはしてもらい、役割をもてるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者個々の体調にもよるが、天気の良い日は20～40分位散歩に出かるなど、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	工場地域の中に建てられたホームのため、交通量が多く周りには河川もあり、事故の危険性が高く、また、外部からの侵入を防ぐためにも、やむを得ず玄関には施錠をしている。利用者には閉塞感などがもたらされることのないよう、戸外へ散歩する機会などを多くとることで、できるだけ気分転換できるように努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に来てもらい年2回の避難訓練を実施している。また、近隣の方に協力してもらえるように運営推進会議でも検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取した食事量や水分量は一般状態チェック表に記録し、量や食事形態も記入してある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに生花など生けることで季節感を採り入れており、テレビの音も会話を邪魔することなく配慮されている。廊下の一角には絵に出てくるような和室があり、調度品も利用者が使用した頃のものが用意してある。フロアの壁には利用者が作った飾りものや写真が掲示してある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には、以前使用していた馴染みの椅子、テーブル、整理ダンス等が持ち込まれ落ち着いた環境になっている。洗面台も取り付けがあり、各自使いやすいように配置している。		